

サンフロント21 懇話会

〒410-8560
沼津市魚町1番地 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL.055-962-6520

2025.1.23 No.134



静岡新聞社・静岡放送 社長

大須賀 紳晃

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様に心よりお慶び申し上げます。

昨年は、元日の能登半島地震で甚大な被害が発生し、断水の長期化などが大きな問題となりました。秋の衆院選で

は「政治とカネ」に端を発した逆風の影響で自民、公明の与党が過半数割れする結果となり、政権運営は綱渡りが続いています。国際情勢に目を転じれば、ロシアとウクライナの戦争、不安定な中東情勢は予断を許さない状況です。また、世界の注目を集めた米大統領選は、共和党の前大統領トランプ氏の圧勝で決着しました。米国にとっては対外的威圧を強める中国とどう向き合っていくか、世界の平和と安定にリーダーシップをどう発揮するかが最大の課題となります。

サンフロント21懇話会では、県東部・伊豆地域のさらなる発展、活性化を目的にさまざまな活動を続けています。昨年5月に誕生した鈴木康友知事には、就任後の早い段階で当懇話会主催の伊豆地区分科会にご出席いただきました。鈴木知事は公約に「幸福度日本一の静岡県をつくる」を掲げています。県東部・伊豆地域は観光、食、温泉、交流人口拡大、移住・定住の多さなどポテンシャルがあり、大きな可能性を秘めています。超高齢化社会、人口減少時代にあって「まちづくり」や「医療」などのテーマを今後も掘り下げてまいります。

サンフロント21懇話会は皆様方の厚いご支援とともに歩みを重ねてまいりました。今年6月12日に30周年の記念総会を予定しております。会員の皆様とこれからも研究や提言をしていきたいと存じます。本年も活動への変わりぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



サンフロント21懇話会 代表幹事
静岡中央銀行 会長

清野 眞司

新しい年を迎え、会員の皆様には心よりお慶びを申し上げます。県東部の活性化に向けて、さまざまな提言を続けているサンフロント21懇話会は2025年6月に設立30周年を迎えます。6月12日には記念式

典を開催する予定で準備を進めておりますが、ことしはその存在感を益々高める年にしていきたいと思っております。

昨年、JR沼津駅周辺再開発事業において、駅南口に高層階の複合施設の建設や駅北口の大型商業施設跡地に新たな大型商業施設の進出が決定するなど大きな進展がありました。また2027年度内の竣工に向けて進む三島駅南口東街区再開発、富士駅北口再開発、富士山周辺のウーブン・シティ構想など、当地域では地域の未来を築く事業が進んでいます。当懇話会では昨年11月に開催した東部地区分科会においては「東京100キロ圏内の地域間競争をどう勝ち抜くか」をテーマと致しました。各都市の動きが東部地域全体の発展につながるよう、当懇話会はこれまでも増して、実効性のある提言活動に取り組みたいと考えています。

視点を国内外に転ずれば、訪日外国人客数は過去最高を記録しました。魅力的な観光資源が豊富であるにもかかわらず、インバウンドの取り込みに課題がある県東部としては、さらに増していくビジネスチャンスはどう活かすかが問われます。一方、国際情勢はロシアによるウクライナ侵攻の長期化や、アメリカでの新政権樹立など、不透明さが増えています。さらに円安、それに伴う値上げの波が市民生活を直撃しています。

そうした中で県東部を、より活力あふれる地域にするためには、柔軟で独自性にあふれた新たな発想と果敢な行動力が求められます。ことしも会員の皆さまのさらなる結束と、懇話会活動への一層のご支援、ご協力をお願い致します。

新年のご挨拶



静岡県知事
鈴木 康友

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は、元日に発生した能登半島地震に始まり、夏には「南海トラフ地震臨時情報」の発表、台風第10号の影響による豪雨被害など、知事として県民の皆さまの生命・財産を預かる責任の重大さを強く認識する出来事が続きました。

被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

私は昨年5月の知事就任以来、スピード感を持ってさまざまな課題の解決に取り組んでまいりました。そして、本年は、知事として初めての予算編成や次期総合計画の策定など、本県を幸福度日本一に導くための取り組みを本格的にスタートさせる年です。

本県は、人口減少や激甚化・頻発化する災害への対策など、数多くの課題に直面しています。一方で、多彩な産業や豊かな自然、暮らしやすさ、交通アクセスの良さなど多くの強みを有しております。これらを上手に活用して、県政を前に進めてまいります。

近年、不安定な国際情勢や物価高騰など、何かと暗い話題が多いですが、一方で賃金の上昇とともに、長引くデフレ経済、いわゆる「失われた30年」からの脱却といった、明るい兆しも見えてきました。こうした時代の潮流を的確にとらえ、前例にとらわれない独自の取り組みを果敢に進め、本県の未来を創り、全ての県民の皆さまが豊かに安心して暮らすことができる社会の構築を目指してまいります。

「乙巳(きのとみ)」である本年が、「幸福度日本一の静岡県」に向けた萌芽(ほうが)の年となるよう、変化を繰り返しながら進化していく蛇のごとく、私自身が先頭に立って全力で県政運営に取り組んでまいる決意ですので、県民の皆さまには、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

末筆となりましたが、皆さまの新しい年が素晴らしい一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。





沼津市長
頼重 秀一

新年あけましておめでとうございます。

令和7年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年も、沼津市が掲げる将来都市像「ひと・まち・自然が調和し、躍動するまち」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

さて、沼津駅周辺総合整備事業においては、新貨物ターミナル鉄道施設整備が進み、新車両基地の造成工事が始まるなど、本格的に事業が動き出しています。

また、再開発事業などのまちなかへの民間投資も進んできております。

このような中、沼津駅南口交差点の地上横断化や、中央公園の再整備、「OPEN NUMAZU」の実施など、更なるにぎわいづくりにも取り組んでまいります。

スポーツを活用したまちづくりも着実に進んでいます。

昨年夏の「パリ・オリンピック」のフェンシング競技において日本代表が5つのメダルを獲得しました。メダルを獲得された選手全員が本市で合宿を行ったことを思うと、感慨深いものがあります。

また去年は、本市出身の俳優磯村勇斗さんが企画した「しずおか映画祭」が市民文化センターで盛況のうちに開催されました。市民の皆様への芸術文化に対する機運の高まりを好機と捉え、芸術文化に親しむための支援に取り組んでまいります。併せて、昨年国指定史跡となった高尾山古墳をはじめとする歴史文化資源の保存・活用を図り、本市の文化振興をより発展させてまいります。

更に本市は、「ラブライブ!サンシャイン!!」をはじめ、様々なアニメコンテンツが充実しており、アニメを通じ、多くの方々に沼津にお越しいただき、ビジネスチャンスも創出されています。

令和5年の市制施行100周年の盛り上がりそのままに、昨年も、沼津を愛する皆様による自発的な活動が市内各地で行われております。引き続き、官民連携によるまちづくりを積極的に進めてまいります。

結びに、皆様方の御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。



われら



年生まれ

2025年(令和7年)は、十二支が巳(み)、十干では乙(きのと)です。これらを組み合わせた干支では乙巳(きのと・み)となります。

乙巳は「さらなる成長を目指して力を蓄え、それを試すとき、夢や思いに果敢にチャレンジするとき」とされます。脱皮を繰り返して成長するへびは、再生の象徴です。東部地域では活性化を目指して、形を変えていく様々な企画、提案がなされています。それらが大きく前進することを願ってやみません。

巳年生まれの人は「努力を惜しまない情熱家」といわれています。そんな巳年生まれの会員の皆様に、新年の期待や抱負を寄せていただきました。



静岡コンサルタント株式会社
代表取締役会長

森崎 祐治

昭和28年1月23日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は政治も経済もそして気候も国内外ともに変動が顕著な1年でした。これまでの枠組みだけで人間界の利害、都合を追いかけともうまく取まらない時代に入っている感が又強まった気がします。この惑星の平和とこの地域の幸せを祈念して、精進してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



県議会議員

鳥澤 由克

昭和28年4月11日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

この度、静岡県議会第123代の副議長に選任されました。

地方創生や地方分権改革という新しい時代の政治システムを最大限に生かし、議会の監視能力や政策提案能力を高め活発な議会活動を展開し、県民の負託に応えるよう努力してまいります。

本年もよろしくお願いいたします。



沼津市商工会会長

渡邊 好孝

昭和28年7月8日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

沼津市商工会が創立し15年が経過し、令和6年度は種々の記念事業を実施しています。翠富士関の講演会「小さな力士は大きな力士を負かす極意」もその1つです。原地区、浮島地区、戸田地区が元気になるための事業をこれからも実施してまいります。

.....



県議会議員

蓮池 章平

昭和28年11月28日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

沼津駅周辺総合整備事業の進展により沼津も大きく変わり始めており、これまでご尽力頂いた皆様に感謝申し上げます。これまでの常識が通じない激変の時代だからこそ、現場に足を運び、声を聞き、現場から発想する自らの原点を忘れずに進んで参ります。本年もよろしくお願いいたします。

.....



沼津商工会議所
専務理事

杉山 金芳

昭和28年12月7日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

私は6度目の年男になり、改めて過ぎ去りし歳月を感じます。

今年、1月17日には沼津商工会議所が創立100周年を迎え、まさにここに立つ自分の運命を感じ、誇らしげにも思います。先人の永きにわたって築き上げた歴史と実績に誇りをもちながら、未来に向かって果敢に挑戦していきます。本年もよろしくお願い致します。



県議会議員

曳田 卓

昭和28年12月16日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

1997年に渡辺朗先生の秘書を契機に48年が経ちました。気づいてみたら市議12年県議14年目を迎えます。政治に携わる者として、多くの人が持つ「生活がさらに向上し、幸福になりたい」との願いの実現に向け、さらに政治活動に邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

.....



静岡県富士農林事務所長

諸田 僚

昭和40年1月22日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

今年は、私にとって、60歳＝定年という節目となる年です。節目の新しい年を迎え、健康で楽しい生活を過ごすことが出来るよう努力していきたいと思っています。

已年らしく、再生・変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年となりますよう祈念しております。

.....



あいおいニッセイ同和
損害保険株式会社
営業顧問

今泉 清司

昭和40年3月4日生まれ

新年明けましておめでとうございます。今年の3月で還暦を迎えるにあたり昨年転職を致しました。新たな環境の中金融の分野だけでなく今まで培った経験を活かし地域のお役に立てるよう「人と人をつなぎ」「地域をつなぎ」自分の売りである行動力で今年1年も頑張って取組んで行きます。どうぞよろしくお願い致します。



静岡県東部健康福祉
センター所長

窪田 浩一郎

昭和40年3月15日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

今年は、私も論語で言う「耳順」という年を迎える事になりますが、中々、人の言葉に素直に耳を傾けて、全てを受け入れられるような境地には至れておりません。また、「暦が還る」という年でもありますので、ぜひ、新たな気持ちで公私ともに再スタートを切る節目にしたいと思います。



株式会社NNH
代表取締役

羽切 勝利

昭和40年5月20日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ今年は、還暦を迎えることになりました。時間の経過は本当に早いですね。

いろいろな方に助けて頂きながらの、あっという間の59年間でした。

今年も今までと変わりなく、私の好きな言葉でもある、「本気」と「感謝」を忘れず、背伸びしないで人への思いやりを持って生きていきたいと思えます。本年もよろしくお願い致します。



静岡県東部地域局長

柳川 典之

昭和40年5月11日生まれ

あけましておめでとうございます。

県東部地域には魅力的な仕事があり、地域を支える多くの企業、団体、人々に恵まれています。

蛇のようにニョロニョロと動き回って皆様をお繋ぎし、今ここに住む人が地域への愛着や誇りを持ち、地域外からの来訪を促し、この地域を将来に繋げられるよう今年も取り組みます。



静岡県東部地域局
伊豆観光局長

市川 顕

昭和40年12月13日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

温暖な伊豆半島からは水仙、紅白梅、河津桜など季節を先取りして花の便りが届き、ツツジ、アジサイ、ジャカランダと続き夏の観光シーズンを迎えます。今年は乙巳(きのとみ)。草木がしなやかに伸び、変化をしながら花を咲かせるように、明るく発展する年になることを祈念しています。



静岡県熱海財務事務所長

佐野 晴也

昭和40年5月13日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

還暦を迎える今年は、60年に一度の「乙巳(きのとみ)」にあたるそうです。巳年は古来から「再生と復活」、「実を結ぶ」など縁起が良いとされていますが、乙巳はその中でも特に縁起が良いそうです。干支にあやかり、地域経済が益々の発展をするよう願っております。



株式会社80SKIP
ホールディングス
代表取締役

山縣 正二郎

昭和52年4月6日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

創業23年を迎え、本年は変化と成長の時と考え、ウエルネス静岡創生を軸に、新たな挑戦に臨みます。経済の不確実性をチャンスに変え、柔軟性と適応力を発揮して参ります。皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

石破「泥船」政権はどこに向かう／ 少数与党、7月に審判



共同通信社
編集局次長（前政治部長）

杉田 雄心

2025年の政界は、石破茂首相が「泥船」のように沈んでいくのか、「泥臭く」延命するかが焦点だ。

7月の参院選で少数与党

の石破政権に審判が下る。そのゴールに向けて、与野党が25年度予算案審議、企業・団体献金や選択的夫婦別姓制度の是非を巡って攻防を繰り広げる。

昨年の衆院選で自民党が大敗した後、国会の風景が一変した。衆院の17の常任委員長職のうち6つを野党側が担う。中でも、国会審議の花形とされる予算委員会の委員長は立憲民主党の安住淳氏が就いている。25年度予算案の衆院通過には、野党側の賛同が不可欠となる。国会運営に精通した安住氏だけに、「自民1強時代」のように、2月下旬にすなりと衆院通過できるかは見通せない。

予算委は派閥裏金事件を巡る参考人質疑や証人喚問の舞台ともなる。自民の裏金議員が国会の政治倫理審査会で「説明責任を果たした」と訴えるのを横目に、野田佳彦・立民代表は「安倍派幹部が政倫審で言ったことは本当ではない可能性がある」と追及の手を緩めない。

選択的夫婦別姓制度が議論される衆院法務委員会も野党委員長だ。この分野で鋭い国会質問を発してきた立民の西村智奈美元幹事長が仕切り役となる。立民の作戦は、導入に賛成する公明党を引き込むことだ。自公関係へのくさびは、参院選の選挙戦略につながっていく。

「年収103万の壁」で自民と一時決裂した国民民主党は「178万」を目標に仕切り直しの協議に臨む。日本維新の会は教育無償化の協議で成果を狙う。自民が野党を両天秤にかける展開もあり得る。

野党の参院選協力も見逃せない。立民、国民民主、維新は協力して、改選1人区で自民と「1対1」の構図をつくる構えだ。交流サイト（SNS）や動画サイトが選挙結果を左右するため、与野党とも戦術研究に余念がない。

今年の干支「乙巳（きのとみ）」は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展する年」とされる。政治情勢によっては政界再編や衆参同日選の動きも出かねない。政治リーダーが変化にどう適応していくのが問われる年となる。

2025年の経済見通し 高まる先行き不透明感 「トランプ・リスク」が波乱要因に



時事通信社
経済部長

川村 豊

2025年の日本経済は、長期化する物価高が家計を圧迫する中で力強さには欠けるものの、内需を中心に緩やかな回復基調が

続きそうだ。成長を持続させるため、まずは2025年春闘で前年のような高い賃上げ率を実現できるかが焦点となる。一方で先行きを巡っては、25年1月に米大統領に返り咲くトランプ氏が掲げる経済政策が最大の波乱要因で、先行き不透明感が高まっている。

日本経済24年、1年近く続く低迷期を抜け、緩やかながらもようやく回復局面に戻ってきた。けん引役となったのが、歴史的な賃上げ率となった24年春闘。同春闘では好調な企業業績を背景に大幅な賃上げ回答が相次ぎ、ベースアップ（ベア）に定期昇給を合わせた賃上げ率は5.10%と33年ぶりの高い水準を記録した。

これを受け4～6月期の実質GDPは前期比0.5%増と2四半期ぶりのプラス成長。このうち、GDPの半分以上を占める個人消費は0.6%増となり、5期ぶりにプラスに転じた。1年にわたり続いた個人消費の低迷からようやく脱した格好で、25年も個人消費と設備投資を下支えに緩やかなプラス成長が続くとみられる。

ただ、物価高により家計は景気回復の実感に乏しく、25年も春闘での高い賃上げ実現が不可欠となる。既に連合は「5%以上」と前年と同じ高い水準の要求方針を決定。これを受け、産業別労働組合は相次ぎ過去最高額の要求方針を固めており、前年と同水準の高い賃上げ率が見込まれている。

一方、先行きが見通せないのがトランプ次期米大統領の経済政策。トランプ氏が選挙期間中の公約通り中国に高関税をかければ、日本の最大の貿易相手国である中国の景気を下押しし、日本の輸出産業に打撃となる。米国と中国を中心に報復関税が飛び交う事態となれば、世界経済全体への影響も避けられない。さらに高関税政策は米国のインフレも再燃させかねず、為替市場で円安・ドル高が進む可能性がある。そして、円安は再び日本の物価上昇に拍車を掛けることになる。25年の日本経済は、緩やかな成長が見込まれるものの、米新政権の政策に振り回される局面も多くなりそうだ。

サンフロント21懇話会

2024年度 第30回東部地区分科会

東京100キロ圏内で勝ち残る ー東部地域の潜在力をどう生かすか

日時

2024年11月22日(金)

会場

みしまプラザホテル



サンフロント21懇話会は11月22日、みしまプラザホテル(三島市本町)で東部地区分科会を開催した。三島市をはじめ、“東京100キロ圏内”に位置する県東部として、地域間競争にいかに関与するかをテーマに、有識者が議論した。



主催者挨拶



静岡新聞社
取締役経営戦略局長
管理・東部担当
溝口 将人

今回は30回目の東部地区分科会となりました。お忙しい中、多数お集まりいただき、ありがとうございます。

10月には衆院選があり、15年ぶりに自公過半数割れという結果となり、11月のアメリカ大統領選ではトランプ氏が圧勝しました。今後の日米関係の動向にも注目しなければなりません。物価高や世界情勢といった不安材料もあり、先の見通せない昨今ではありますが、私たちが暮らす地域が、今後、どう魅力をいかに発信していくかが重要となってまいります。

サンフロント21懇話会は今年度の活動方針として、『未来の都市景観を県東部から発信』を打ち出しております。本日の講演やパネルディスカッションを通して、三島市や県東部が目指す方向性を打ち出してまいりたいと思います。

当懇話会の活動は今年で30年の節目を迎えました。会員の皆様のご支援に改めて感謝申し上げますとともに、さらなるご協力をお願いし、主催者のご挨拶とさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役会長
清野 眞司

日頃はサンフロント21懇話会の取り組みや活動にご理解ご尽力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

三島市では2022年度に、三島市まちなかりノベーション計画が策定され、官民一体となって街中のリノベーションプロジェクトを推進しております。その一環として、三島駅南口東街区A地区第一種市街地再開発事業が4月15日より着工し、今後、このエリアはますます魅力ある街へと進化を遂げ、交流人口や地域振興の増加に期待がされます。

東京100キロ圏内は、首都圏からの移住者取り組みを目指し、まちづくり整備がさかんに進められています。地方の人口減少と首都圏一極集中が社会問題になる中、今後の発展に注目していきたいと思っています。

サンフロント21は地域社会の持続的発展に寄与することを目指しており、今後も工夫を凝らしながら運営に努めてまいります。ぜひ会員の皆様の一層のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

開催地代表挨拶



三島市長
豊岡 武士氏

東部地区分科会が当地三島市で開催されますことに、感謝申し上げます。

本日は早稲田大学の森本教授のご講演、第二部では東京100キロ圏内の地域間競争を勝ち抜くをテーマにしたパネルディスカッションを予定されております。

森本先生は都市計画や交通計画の専門家で、宇都宮大学で教鞭を執りながら、宇都宮市のLRT計画推進に深く関わってこられた方と伺っております。また、静岡県都市計画審議会会長を務められるなど、当県にもご縁の深い方で、奥様は三島市出身とのことでした。

三島市におきましては、三島駅南口東街区の再開発を進め、三島駅と三嶋大社、広小路駅を結んだ三角形を中心市街地としたまちなかリノベーション計画を策定しております。同地区を、より活力と賑わいのあるエリアにし、多くの市民の皆さまに喜んでいただくと同時に、観光交流客数も、810万人を目標にしております。

令和7年には、サンフロン21懇話会が設立30年を迎えられるということで、先日も5人の首長と座談会を開催しました。東部の市町には、それぞれ他に負けない強みがあることを実感いたしましたところでございます。

懇話会を通じ、連携と交流をはかり、さらなる発展を図ってまいりたいと思います。



基調講演

駅まち空間と これからのまちづくり

講師

早稲田大学理工学術院
社会環境工学科教授

森本 章倫氏



災害大国だからこそ考えるべき コンパクトシティ

都市計画をやっていて悩ましいのは、なんといっても人口減少です。日本の総人口は、2050年までに約20%減となると予想されています。1971年と人口規模が同じです。私は1964年の東京五輪の年の生まれですが、新幹線が開通した時代ですね。意気揚々とした時代の幕開けだったと思います。

前向きに考え、きちんと準備すべきです。予測モデルというのは外れることが多いのですが、人口推計だけは比較的当たります。2050年に何が起こるか、ある程度予測できるのならば、そこに向けて準備する。それが、日本が取り組むべきコンパクトシティです。

生産年齢人口や税収が減るのは事実です。多くの自治体は税収減に陥る一方、道路や各種インフラは維持管理がかかり、高度経済成長期に作ったものは、どんどん更新しなければなりません。

最近では災害の激甚化が問題になっています。令和6年の正月は、能登で大変なことが起きました。日本の学术界として激甚災害を議論すると、難しい問題にぶち当たります。人口減少する被災地をどう復興させるのか、ということです。

たとえば輪島市は2040年までに人口が半

減するといわれます。計画ができて、実際にやろうとすると大きな課題にぶちあたり、少ない財源でどうしたらいいのか自治体の首長さんは苦しみます。こういう問題は、どこでも必ず起きます。

コンパクト+ネットワークとは、それぞれの拠点を強くし、つなげるという意味です。強い場所をちゃんとつくる。中心市街地だけでなく、観光や産業の拠点でもいいのです。自分たちの町を考えたとき、必要な場所をしっかりと考えようということです。

自動運転時代だからこそ 「駅中心」発想

日本は、明治政府が鉄道を一生懸命作り、日本中、鉄道がくまなく整備されました。世界中でも、こんなに鉄道ネットワークが整備されている国はありません。

静岡県都市計画審議会でも静岡のことをいろいろ調べさせていただきました。静岡県では、区域マスタープランで複数の区域にわけて将来像を描いていますが、ここでは沼津市・三島市・清水町・長泉町あたりがひとつの区域になります。

マスタープランでは、駅がひとつのキーワードになります。マイカーがあるにもかかわらず、

なぜ、駅か、と思われるでしょう。

日本は江戸時代まで徒歩が基本的な移動手段でした。200年前にイギリスで鉄道が生まれ、100年前にアメリカでモータリゼーションが発生し、車の時代になりましたが、これも100年経ちました。

50年前に生まれたLRTは、行き過ぎた車社会へのアンチテーゼでした。そして10年前、情報通信技術によるカーシェアリングのしくみが普及しました。

この先は自動運転の時代になるでしょう。中国やアメリカではレベル4(運転手なしで走行)が始まっています。2020年代は、間違いなく自動運転の時代になる。そんな時代に、今更、駅か？と思われるのも無理はありません。

重要なのは、自動運転がメインになる時代だからこそ、駅、という視点です。

次世代は、人中心の交通システムが来ると思っています。マイカーのように数百万円の車を自分で買う時代ではなく、必要なときに必要な場所で、スマホで車を呼び出して、ライドシェアする、というようなくみです。

自動運転ができる車を購入したら、自分が使わない時間は、ライドシェアをさせて稼がせるという人が増えると予想できます。こういうしくみは、情報通信技術でつながれば、どんどん広がる。車は、買わなくてもいいということになるのです。そのような時代になれば、必ず多様な交通が集まる交通結節点が重要な施設となります。

ポストコロナで起きたこと

居住という観点で見ると、首都圏でも都市人口が増えている都市と減少している都市があります。ところが、人口が増加している都市の中でもコロナを境に、増加にブレーキがかかったところと、さらに多くなったところに分かれました。

東京至近の地域は減った一方、増えたのは、東京50キロ圏内ぐらいのところ。テレ

ワークが始まり、都心の高い家賃のところで住む必要がなくなり、50キロ圏でも100キロ圏でもいいという人が増えてきました。

ポストコロナのまちづくりを考えると、「15分都市」というのがキーワードになります。必要な6つの機能が、歩いて15分以内にワンセットでまかなえるという意味で、ロックダウンした国で、身近な生活圈を作ろうという、ヨーロッパ発のムーブメントです。

東京では、1923年の関東大震災で郊外化が進み、郊外に暮らしの拠点をもち、山手線内に通勤するライフスタイルが定着しました。今後は、拠点ごとの暮らしを大切に、月に数回、山手線内に通うというライフスタイルに変わりつつあります。

では、コンパクトシティはどうやって作るのか。まずは交通の面でどうやってコンパクトにするかを考えてみましょう。

郊外に住んで時々マイカーでドライブする、というような状態では、コンパクトにはなりません。どこに住むかは自由ですが、居住地の選択指向性が“歩いて暮らせるところ”になって初めて、ゆるやかに、コンパクトシティへとなっていくのです。

駅中心の3要素— 密度、ダイバーシティ、デザイン性

便利で魅力的な場所を作るにはどうしたらいいのか。ヒントはアメリカにあります。

車社会が行き過ぎた1980年代から、アメリカでは駅を中心としたまちづくりが進められました。毎日車を使うような国民に、どうやって駅中心のまちを作ったのでしょうか。

ポイントは3つあります。ひとつは、一定の密度が必要ということ。40人／ヘクタールの密度です。統計的には、これを下回ると公共交通機関は維持できないと言われます。

さらに、多様性を持たせる意味でダイバーシティ。所得の高い人もそうでない人も、お年寄りも子どもも、いろいろな人が暮らせるまちです。

そして、最後はデザイン性。ロサンゼルス郊外にあるパサディナというまちは、駅の上に高齢者用の住宅を作りました。エレベーターを降りればすぐに電車に乗れるのです。また、サンフランシスコの郊外都市では、もともと大型ショッピングセンターが撤退した後、駅併設の集合住宅を作り、ちょっと離れたところにテラスハウスを作り、さらに戸建て住宅を整備した。デベロッパーは、駅前だから売れると思って、駅前に戸建て住宅を作ろうとするのですが、戸建てに住む人はだいたい車を持っていますから、本当は駅から離れたところでもいいのです。

サンフランシスコのフルーツバールというまちは、2001～2006年までの間に、不動産の資産価値が500%増加しました。ディズニーケーション（ディズニーランドのような楽しい場所）という和製英語が生まれるほど、魅力的なデザイン都市を作ったのです。日本の鉄道沿線開発も100年の歴史がありますが、デザインにはアメリカには勝てないと思います。

自動運転時代の“駅まち空間”を考える

日本の、100年前の鉄道沿線まちづくりは、世界に冠たるものでした。日本のまちづくりは沿線全体のことを考えたモデルだからです。

伊豆箱根鉄道さんは、利用者数は1991年のピーク時、1日あたり18,000人でしたが、今は11,000人ぐらいまで下がっており、経営的には厳しいと思われます。ただ、沿線に優れた資産がありますから、これを最大限に活用すべきでしょう。行政と鉄道事業者と民間で、てこ入れをしてほしいところです。

駅まち空間とは、駅前広場だけでなく、駅前の周辺を全部入れてやるまちづくりのことです。これは、日本の弱かったところでした。

三島駅南側の再開発も、これがポイントになります。海外の人口10万人ぐらいの都市で



は、駅前駐車場を芝生にし、LRTを導入したところもあります。日本でも、やろうと思えばできるはずですが、タイミングときっかけが必要です。

自動運転時代になれば、いろいろなものが変わります。まず、駐車場が不要になる。必要なのは自動運転に対応する駅前広場の再設計と乗降できる空間だけになる。私が今、お手伝いしている沼津のまちづくりでは、駅前を自動運転に対応できるものにしようと、真剣に検討しています。

国交省側は、日本の中で、できるだけ早く、自動運転に対応した駅まち空間のパイロット版を作りたいと考えています。前例主義で動く国ですから、ぜひ沼津や三島でやってみたいと思っています。

交通未来都市・宇都宮の挑戦

宇都宮市は人口51万人の、東京100キロ圏内の中核市です。2008年に日本で初めて、ネットワーク型コンパクトシティを提案し、「交通未来都市・宇都宮」を目指しました。

計画当初、市民51万人のうち郊外に住む17万人には、公共交通手段がありませんでした。高齢になっても車を手放せない。そこで、取り入れたのが、コミュニティバスで、市が導入するのではなく、町の自治会からの要請に基づ

き、ルートも料金も住民が決めるという方法を採りました。1カ所で始めてみたら、各自治会が手を上げて、14地区まで増えました。

加えて、駅再開発です。JR 操車場があった2.7ヘクタールのところに、再開発で住宅あり商業あり、2,000人規模のコンベンションセンターありと、複合的なものを作り、75年ぶりの路面電車を、全線新設で、2023年から導入しました。

国内外からの視察も多く、私も先月は20～30カ国ぐらいの人に会って説明しました。なぜ成功したかといえば、カッコイイ車両だけではなく、サービス水準です。従来はバスが36便しかないところをLRTで256便まで増やしたのです。どうなったかという、人々がだんだん乗り始め、沿線上には6階以上のマンションが16棟建ちました。沿線人口は右肩上がりです。公共交通を先行投資したことで、市街地が活性化したのです。

宇都宮市はもともと工業都市で、工業団地からの法人税が年間100億円を超えるまちです。一番大事なのは、工場が撤退しないで、ちゃんと稼働し続けてくれるかどうか。市内における工業分野の追加投資は1,100億円と激増しました。LRT事業は680億円(半分は国費、さらにその半分は県費)ですから、運賃収入で採算性がとれているか否かは、本当はそれほど大きな問題ではありません。

現在は、51万都市の正面玄関は公園のようにしたいと考えています。携帯電話の基地局データをみれば、どんな人がどこにどれくらい来ているのかはわかる。50分後にはデータが抽出できるからです。このような技術を上手に活用したいと思っています。

宇都宮の二次交通として、効果を面に広げるため、LRT利用者は沿線駐車場を無料にしています。今後は高齢者が心配する駅から離れた郊外エリアも、自動運転車両がうまく利用できます。

LRTはゼロエミッションで、電力はゴミの焼却場から出る電気です。太陽光も活用しています。災害が起きたときも電池が入ったEV車が必要な施設に電気を供給します。さまざまなものをつなげていくことが重要だろうと思っています。



〈講師プロフィール〉

森本 章 倫 (もりもと・あきのり) 氏

早稲田大学理工学術院／社会環境工学科 教授

1964年山口県生まれ。1989年早稲田大学大学院理工学研究科修了。宇都宮大学助教授、マサチューセッツ工科大学(MIT)研究員などを経て、2012年宇都宮大学大学院工学研究科教授。2014年より早稲田大学理工学術院教授(現職)。専門は都市計画、交通計画。博士(工学)、技術士(都市及び地方計画)。

パネルディスカッション

東京100キロ圏内で勝ち残るー 東部地域の潜在力をどう生かすか

パネリスト

- 森本 章倫 氏（早稲田大学理工学術院教授）
- 豊岡 武士 氏（三島市長）
- 神田 主税 氏（三菱地所エリアマネジメント企画部マネージャー/
静岡サウナ協議会理事）

コーディネーター

- 青山 茂 氏（株式会社シード顧問、TESS 研究員）

生活圏を豊かにする取組み

（青山）今回の表題は「東京100キロ圏内で、生き残る、ではなく、積極的に生かし、勝ち残る」という意味です。人口減少という未知の領域において、まちづくりも未知の領域。都市計画をデータ予測から可視化するまで考えなければ、人や投資を呼び込むのはかなわないと感じました。

東京100キロ圏内といえば、宇都宮、甲府、前橋、銚子まで入ります。各地とも豊かな自然や



青山 茂 氏

グルメ、観光もあり、放っておくと同質化競争になるでしょう。静岡県東部地域は、日本人の移住希望先5位圏内に入っています。移住者の増加によっていろいろなことが、変化のカタチとなっていますが、まだまだ、こんなものではありませんね。

（豊岡）三島駅南口では、西街区はすでに富士山三島東急ホテルが開業し、極めて順調な経営の

ようです。東街区は平成9年に国鉄清算事業団より払い下げを受けた用地を含めた1.3ヘクタールの敷地です。ここに、民間投資など約300億円が投じられ、再開発事業などが進められており、令和10年2月の完成を予定しています。



豊岡 武士 氏

計画されている6棟のうち、シンボルとなる高層ビルは24階建て、上は住居、4階部分に高度な健診機能を持つ医療機関が入ります。街区全体を通じて広域健康医療拠点をテーマにしており、下が商業施設、上がマンションやオフィスなどが整備されます。3年半後、三島駅前が大きく様変わりするでしょう。

ただし、駅前が賑わうだけでなく、三島駅と三嶋大社、広小路駅を結んだ三角形のエリアを中心市街地として、まちなかりノベーション推進計画を、地元関係機関と連携しながら、推進していきます。

また、三島駅南口のロータリーも安全性と歩きやすさを考慮し、バスプールと一般車両・タクシープールを入れ替えるなどの改良を予定して

います。さらに、三島駅から三島市民文化会館までの道路は静岡県が、東街区再開発事業区域の前面道路は三島市が電線類を地中化し、景観的にもすっきりとした、素敵な駅前エリアになるのではと期待しています。

(森本) 15分都市というのは、大きな潮流ですが、それがすべてではありません。生活圏を豊かにするというのが共通のテーマです。今は、新しいまちづくりをする千載一遇の機会であり、チャンスを見逃した都市は勝ち残れません。交通移動手段一歩、自転車、電車などと、どう組み合わせるかの発想が必要です。

(青山) 宇都宮にはLRTという軸ができました。ここでは伊豆箱根鉄道が軸になるのでしょうか。

(森本) 私はそう思っています。しかし、のためにはまずはエビデンスが必要です。トライアンドエラーでもいいので、小さな失敗を恐れず、やってみる。ぜひチャレンジを止めないでほしいと思います。

(青山) 当地区の、内側と外側の目をお持ちの神田さんは、首都圏からの地方へのまなざしが、どう変わっているとお感じですか。

(神田) 私は浜松出身の三島在住者です。現在勤める三菱地所グループは、静岡県内でもマンション開発やアウトレットや空港運営などを手がけており、私は大手町エリアを中心にまちの活性化や都市と地域の関係性といったソフト面でのまちづくりサポートを担当しています。



神田 主税 氏

私の肩書きの「静岡サウナ協議会」について説明しますと、静岡県は全国的にも知られたサウナの聖地として、個人的にもサウナ好きが高じ、サウナのコンテンツを生かした地

域活性化ができないかと考えて、静岡県内の企業や自治体を巻き込んで協議会を設立しました。また活動の中でサウナ用トコロテンを清水町の業者と開発したり三島の大学生とサウナ用アロマなどのPRも実施しております。東京の若い経営者はサウナ好きが多く県内の企業と首都圏の企業経営者を混ぜる、サウナ交流を静岡県内でも開催しているところです。

コロナ前は新幹線の始発と終電しか利用しないような生活でしたが、コロナで変わりました。東京100キロ圏内とコロナ禍が重なり、100キロ圏内の都市は活性化していると実感しています。

地方に関わりたい都心ワーカーは 増えている

(青山) 移住者の皆さんは、地域のコミュニティにどんな影響を与えているのでしょうか。

(神田) 外から見る目があります。私も三島のことをあまり知らずに移住して来ましたが、まず、富士山が大きく見えるのに感動しました。駅前の水の美しさも他にないコンテンツです。

サウナの話でいえば、三島のせせらぎを生かしたサウナが楽しめたらと思い、冬には楽寿園で夏には白滝公園でサウナイベントを開催しました。サウナに入った後に自然の中でくつろぐという実に快適なイベントです。温泉を含めてサウナの楽しみ方を提唱できたらと思っています。

(豊岡) 三島は、市街地の中に源兵衛川や桜川が流れ、文化施設もあり、移住者は活発に活動しています。ウイスキー蒸留場が開業したり、空き店舗を活用して芸術家の作品を展示するイベント「三島満願芸術祭」が開催されるなどにより、新たなコミュニティも育っています。

三ツ谷地区にある約21ヘクタールの工業団地には、最後の一区画に体外診断用医薬品メーカーが進出します。大場地区でも区画整理が進んでいます。将来への布石としては、駅前の再開発と工業団地開発を進め、きめ細やかな移住対策と観光で活性化を図りたい。100キロ圏内で、オンリーワンに輝くまちにしたいと思っています。

(神田) どこでも働ける移住者は増えており、首都圏でも地方に関わりたいワーカーはたくさんいます。私に関わる「大丸有環境共生型まちづくり協議会」では、“逆参勤交代”という大手町・丸の内・有楽町のワーカーが、地方に行って課題解決に取り組むという取り組みを進めています。その後、移住する人や地方で副業を始める人も出てきています。自分のノウハウを活かす場所を探す人は増えています。

(青山) 都市のワーカーが地方に来て、最初の浅い関係から、最終的に移住まで行く深い関係になるまで、地方には何が必要でしょうか。

(神田) どの業務を副業人材に委託するのかの要件整理が、まず必要でしょう。金融機関や首都圏企業も斡旋に動いていますが、そこがまだ不十分だと感じます。大丸有には35万人のワーカーがいます。その1%でも地域での副業に興味を持てば、日本は変わるでしょう。

生まれ育った若者こそが、 地域最大の力

(青山) 東部地域の強みをどう生かしたらいいでしょうか。

(森本) 静岡は大きな県で、東と西でも状況は違う。東は東京への近接性を生かせるでしょう。私は、自宅は宇都宮にあり、東京と二拠点居住をしています。三島から巣立った若者が東京に永住せず、賃貸に住んで、永住するのは三島、という道筋を作れたら理想的ですね。

街を支えるのは、街で生まれ育った若い人たちです。東京からの移住者増だけでなく、三島で生まれ育った若者が戻ってくる体制づくりが、ここの強みになる。

移住者がよく言われるのは、地元の強いコミュニティ

に入るのが難しいということ。逆に、地元で生まれ育った人なら大丈夫だということです。宇都宮では、地元出身の女子高生をUターンさせるための対策に、真剣に取り組んでいます。



森本 章倫 氏

(青山) 私も移住者ですが、地域の学校同窓ネットワークの強さは、とても大きいと実感しています。年代を超えて整備されている。生まれ育った若者こそが、最大の強みです。

(森本) 宇都宮が東京で勝てるのは住環境です。地方で1億円出したら、どれくらい立派な家が建てられるでしょうか。

三島がネックなのは、車でしか移動できない場所がたくさんあることです。東京の移住者は、最初は車を持っていません。宇都宮では東京からの移住者には車がなくても生活できるということをアピールしている。歩いて暮らせるまちをベースにする。それが三島の魅力を最大限に生かすことにつながるでしょう。

(豊岡) それは、三島だけでなく、東部地域全体にいえることですね。三島は海と富士山と箱根が近いと、自然環境の良さが居住の最高のメリッ



トともいえます。だからこそ車が必要だという面もあるのですが。

(神田) 住んでいる人が楽しそうなまちは、いいですね。大手町もオフィスが存在するだけではまちが活性化しないので、属性の異なる人が集いやすいサードプレイスやラボが増えています。働き方が変わり、オフィスに行く意味が問われる時代になっています。

(青山) ウェルビーイングへの取組みはいかがでしょうか。

(豊岡) 人生100年時代のスマートウェルネスとして、人も街も産業も幸せで良好な状態になるよう、またウェルビーイング経営を意識する企業が増えているようです。鈴木知事が、来年度の予算編成で「日本一、県民幸福度の高い県を目指す」と言っていました。浜松市と三島市が先陣を切ってウェルビーイングに取り組んでいるところです。

(神田) 東京と三島を行ったり来たりすると、東京には日本全国で地域愛の強く発信力のある人が多いと気づきます。地域は、人の魅力で発信できるのが理想です。三島といえば、若い人は三島スカイウォーク、年配者は三嶋大社で、まだまだ「三島の人」では引っ張っていきません。

発信者に愛があるかどうか。人がどこまで地域のことを思っているか。そこに共感してもら

えるかが重要です。ファンをつくる上で大事なのは、愛ですね。三菱地所には、丸の内というまちが好き、という人が多いのです。

100キロ圏内で勝てる 地域間連携とは

(青山) 地域間連携についてうかがいます。100キロ圏内では、単独の自治体というよりも圏域で考える必要があります。宇都宮は将来に向けて持続可能な都市をつくっているようですが、静岡県東部はいかがでしょう。

(森本) 100キロ圏内の議論は、二極化しており、新幹線停車駅のあるエリアはアドバンテージが高い。重要なのは、そういう勝ち組の場所が、周辺を巻き込んで広域生活圏をつくること。このエリアなら三島が核となって広域連携ができるかどうかです。

(青山) 圏域のかたちは変わってきていますね。私は実は、栃木県の足利高校出身ですが、昔は、宇都宮とそんなに格差がなかったはずでした。

(神田) 地域の拠点やコミュニティに顔になる人がいますので、そういう人を緩く、つないでいくことが大事です。三島と沼津は隣同士なのになかなか顔が見えていない。自治体が細かく分かれているのが課題としてはあると思います。浜松は大合併したことで、エリアを俯瞰して見る施策が進んだ。移住者が増えているので、地元のしがらみに関係なく動けます。

策が進んだ。移住者が増えているので、地元のしがらみに関係なく動けます。

(青山) 最後に、豊岡市長に地域間連携の視点から一言お願いします。

(豊岡) 裾野市、長泉町、三島市、清水町の2市2町で富士山南東スマートフロンティア推進協議会を組織しております。2市2町におけ



る人口は約20万人余となり、中核市に匹敵する都市と捉えられます。ポテンシャルも高いので、力を合わせて企業誘致や移住促進を図っており、同協議会では令和5年12月に自動運転の実証実験も共同で行いました。裾野市はウーブン・シティ、長泉町にはがんセンター、三島は駅前再開発。また、沼津とは地ビールを応援する取組を連携しています。移住希望者には三島と沼津と一緒に回ってもらう取組もしています。

富士山南東スマートフロンティア推進協議会に、沼津市と函南町が連携すると45万人ほどの人口になります。100キロ圏内の競争では絶対

に有利になると思います。

また三島市役所庁舎は65年経ち、新しく建て替える予定で、移転先は南二日町が候補ですが、令和7年6月に議会で審議され、正式決定します。本庁舎が南二日町に移転するとなると、今ある中央町別館と社会福祉会館等の跡地を活用することにより、さらににぎわいと魅力ある中心市街地として大きく大通り商店街の発展が期待できます。ぜひ、多くの皆さんからご指導ご協力をいただきたいと思います。

(青山) ありがとうございます。



〈出演者プロフィール〉

豊岡 武士 (とよおか・たけし) 氏 三島市長

三島市出身。静岡県職員を33年間、県議会議員を3期務めた。2010年から市長を務め現在4期目。日本獣医畜産大(現:日本獣医生命科学大)獣医学部卒。誰もが幸せを実感し良好な状態である「ウェルビーイング」の実現を目指して市政運営に取り組む。

神田 主税 (かんだ・ちから) 氏 静岡サウナ協議会理事

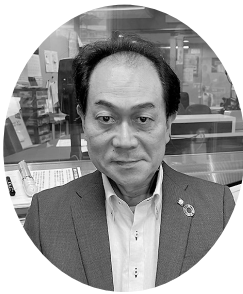
三島市在住(浜松市出身)、三菱地所(東京)に勤務、日々、通勤している。県内の魅力を全国に発信すべく静岡サウナ協議会を立ち上げ、三島市を中心に静岡県全域の関係人口創出やデジタルを活用したまちづくりなどに取り組む。

青山 茂 (あおやま・しげる) 氏 サンフロント21懇話会のシンクタンクTESS研究員

(株)シード顧問、(株)スポーツ・ウエルネス総合企画研究所代表取締役社長。静岡県内外の企業および自治体のプロジェクトのコンサルティングから事業プロデュースまで幅広く手がける。静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会会長、ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー。

ラジオマイトーク

令和6年11月17日放送



お客様と共に目標設定し、 資産運用をお手伝い

よこた まさとし
横田 昌俊 氏
(株)証券ジャパン沼津支店長

主義・モットー ▶ 誠実・挑戦・情熱、
清く・正しく・美しく
趣 味 ▶ 料理、映画鑑賞
出 身 地 ▶ 東京都品川区

お話のポイント

♠旧丸和証券が当社の前身で、2021年に岡三証券グループに入り、グループのリソースをフル活用して成長を加速しています。沼津支店は県内唯一の支店。ネット証券がシェア拡大する中、対面の良さ、強みを生かした価値の提供、お客様と営業員のつながりを大切に営業しています。

♥日本は家計金融資産の4割が70代以上に集中しています。お客様の高齢化に伴い次世代への資産継承、相続案件が増えています。一方、新NISA制度開始で若者も資産形成に対するニーズに変化もあり、「貯蓄から投資へ」の意識改革を進めています。電話でも来店でも相談に応じます。

◆力を入れているのがゴールベースアプローチ型ラップサービスです。海外旅行や留学、住宅購入などお客様と共に目標、ゴールを設定した上で寄り添いながら資産運用計画を立案・実行します。コーポレートスローガンの「ゆたかな未来へ あなたとともに」は、お客様と共に歩みながら資産形成を進めましょうという意味が込められています。

♣中高生時代は硬式テニスのジュニア育成コースで「勝つ」特訓を受け、精神力を養いました。

サンフロン21懇話会の 会員情報

■ 所属・肩書の変更

◇アドバイザー… 大坪 檀 静岡産業大学 総合研究所長 → 学校法人 新静岡学園 学園長

■ 肩書の変更

◇赤武エンジニアリング(株)… 赤堀 肇紀 代表取締役社長 → 取締役会長

◇(株)太洋社…………… 山本 弥之 代表取締役社長 → 代表取締役会長

■ 肩書、会員の変更

◇東海金属工業(株)…… 代表取締役社長 → 代表取締役副社長
関本 芳英 関本 明彦

◇(株)伊藤園…………… 営業部長 → 営業課長
山本 司 北鹿渡 元宣